

## 新型コロナウイルス感染症

### 飛沫感染防止パネルの設置

4月17日、新型コロナウイルス感染症対策の一環として、各庁舎の窓口に飛沫感染を防止するためのスタンド式パネルの設置を始めました。

設置場所は本庁舎、立野庁舎、各振興局窓口、消防本部、図書館など計164台。緊急経済対策の窓口や母子手帳の交付、乳幼児健診等の窓口でも活用しています。

透明なポリカーボネート製でさりげなく、安心安全を守ります。

《問合せ》総務課 ☎23-11116



▲新型コロナウイルスの飛沫感染を防止するため、窓口に設置されたスタンド式パネル

## 港東小と港西小の統合に

### 向けた準備委員会を開催

今年2月、港地区区長会会長と港中、港東小、港西小、港認定こども園の各PTA会長から、市に対し両校の統合についての要望書が提出されました。これを受け4月22日、小島区会館で、港東小学校と港西小学校の統合に向けた第1回準備委員会が開催され、委員委嘱や正副委員長の選出の他、統合後の小学校の位置についての意見交換が行われました。また5月8日には、第2回準備委員会を開催。委員会の意見として小学校は港東小学校を使用し、学校名は港小学校とすることが取りまとめられました。今後来年4月の統合を目標に通学方法や学校行事・地区行事等についても協議が進められます。

《問合せ》教育総務課 ☎23-11117



▲港東小学校



▲港西小学校

# 市政 ニュース

## 主な市政の動き

### 〔4月〕

13日・第3回新型コロナウイルス感染症対策本部会議  
(17日・第4回、5月5日・第5回)

・ユタカ(株)・(株)じゃばん商会より除菌消臭剤の寄付  
21日・豊岡市商工会前会長 徳網 進さんより寄付

27日・市議会臨時会  
28日・(株)タカアキより布製マスクの寄付

7日・兵庫県信用組合より



市役所市民広場に遊具を寄贈

・損害保険ジャパン(株)兵庫支店豊岡支社よりマスクの寄付

8日・(有)駅前花市より学校での一時預かりの児童へカーネーションの寄付

・(株)服部よりフェイスマスクの寄付  
11日・第一生命保険(株)よりマスクの寄付

### 〔5月〕

※掲載している情報は編集時点(5月13日)のもので、変更になっている場合がありますので、ご注意ください。

## 豊岡市スポーツアドバイザーの設置

市では、スポーツの推進に関する高度な専門知識・経験および優れた識見を有する方から指導や支援を得るため、豊岡市スポーツアドバイザーを設置しました。

4月1日、中貝市長から3人に委嘱状を交付。2023年3月31日までの3年間、アドバイザーとして活動します。スポーツ教室での指導や支援などを通して感動や憧れ、夢を育むとともに、子どもたちの基礎的な体力、技術の向上につなげます。

《問合せ》スポーツ振興課 ☎21-9023



▲スポーツ特別アドバイザー 上治 丈太郎さん

公益社団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会参与を務める上治丈太郎さんは、香美町出身でソウル五輪以降夏冬計14回のオリンピックに関わって来られました。これらの経験を活かし、市民が楽しくスポーツを実践・継続できるアドバイザーをいただきます。



▲スポーツアドバイザー 紀氏 香織さん

豊岡市出身の紀氏香織さん(旧姓…井上さん)は、2012年ロンドンオリンピック女子バレーボール銅メダリストで本市唯一のオリンピックピアンです。09年には日本代表に初選出、10年世界選手権では銅メダルを獲得されました。現役を退いた後も、一般社団法人スポーツリハビリに所属し全国で指導者として活躍されており、本市でもバレーボール教室の講師を務めていただいています。



▲スポーツアドバイザー  
特定非営利活動法人  
NOMOベースボールクラブ

地域唯一の硬式野球社会人チームの特定非営利活動法人NOMOベースボールクラブは、2003年にクラブ設立、大リーガーの野茂英雄さんが代表理事に就任されました。13年1月から本市での活動の開始とともに、少年野球教室において毎年子どもたちを指導して、野球の普及活動をされています。

## 中貝市長の徒然日記 ⑮

### 何が正しいか分からないとき

今回も、この徒然がお手元に届く頃に世の中がどうなっているのか、正直見当もつかない中で原稿を書いています。

5月12日から、小中学校の登校日を週1回設定することにしました。幼稚園、小中学校は、県教委の強い要請を受けて、新学期早々から、登校日を設定しない形で休業を続けてきました。夏休みも長い休業ですが、今回と違って、子どもたちは自宅に閉じ込められている訳ではありません。

子どもたちの様子はどうなっているのか？市の教育委員会が、小中学生の保護者にアンケートを実施しました。起床が遅くなった児童生徒は65%、就寝が遅くなった児童生徒は48%ありました。勉強をまったくしていない子は5%、イライラすることが増えた子は、25%ありました。

このまま休業が続くと、生活の立て直しが難しくなります。ストレスや不安から、子どもたちが学校に行きづらさを感じること懸念されます。「きゅうしよくとべんきょうをしたいです。たいそうをしたり、走ったりしたいです」という手紙が担任に届いたこともありました。

今なお世界中で人々がウイルスと闘っている中で、私たちは、何が正しいのか悩みなから「子どもたちの事実」を基に考え続けて、登校日を設けることにしました。「子どもたちの心に水やりをする日」と位置づけています。

接触を避けるため郵便受けに課題を入れに行つたとき、担任の体調を気遣う手紙が貼ってあったこと。家庭への電話の際、感謝の言葉をかけられたこと。「学校で漢字はどうやって教えているのですか」と尋ねられ、伝えると「家でもやってみます」と言われたこと。「子どもが勉強するのを見て、どこで間違えるのか分かりました」と言われたこと。

そんなことを励みに、先生たちも頑張っています。どの子どもも星一東井義雄先生の言葉が、心に沁みます。